

事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日から

平成 31 年 3 月 31 日まで

1 事業の概況

我が国は、人口減少と高齢化が進んでおり、特に地方では若年層が都市部へ流出しており、高齢化に拍車をかけるなど厳しい状況が続いています。

阿佐東地域につきましても、これらの厳しい環境がますます深刻化していることに加えて、マイカー世代の高齢者層への拡大が続いており、鉄道輸送が減少の一途を辿っておりますが、当社が運営する阿佐東線が地元住民や四国遍路をはじめとする観光客の移動手段としての役割を果たすため、平成 30 年度も輸送の最大の使命である安全・安定輸送を最優先として事業に取り組んでまいりました。

安全面につきましては、鉄道の安全・安定輸送完遂のため列車の運転業務や駅業務を厳正に行うとともに、車両・設備の点検・検査を確実にを行い、安全最優先で業務に取り組みました。JR など社外の研修、講習会、訓練にも積極的に参加し、社員の知識・技能の向上を図っております。さらに地元の中学校と連携し、また、団体ツアー客にも協力いただき、臨時列車を使用して、列車火災と地震津波を想定した避難訓練を実施し、事故発生時の社員の対応能力の維持・向上を図りました。

営業面では、阿佐東地域観光ツアー造成に伴い、徳島～室戸～高知間を割引価格で 3 日間乗り降り自由の「四国みぎした 55 フリーきっぷ」の販売を継続し、PR 強化に努めました。利用促進策としましては「お花見列車」「こいのぼり列車」「てるてる坊主列車」「自然体験ツアー」「天の川列車」「すすめ！お笑い列車」「サンタ列車」「飾り雛列車」「イルミネーション列車」「なごみ列車」など当社のイベントを実施し、また「穴喰伊勢エビ祭り」「商工産業祭」「JR 四国鉄道の日ふれあい祭り」など地域の各種のイベントに参加し、誘客活動やブース出店などを行い、利用促進のための PR とグッズ販売を行いました。また、地域のイベントの機会を捉えて臨時列車を運行し、利用客の利便性と収入の確保に努めました。車内の自動放送に英語を追加し、インバウンド向けのサービス向上を図りました。

さらに、地元の方にマイルール意識を持っていただくため、地元中学校において阿佐東線をテーマとした総合学習の実施、地元中学生の職場体験の受け入れ、地元小学生の俳句・図画作品の車内および穴喰駅コンコースへの展示、幼稚園児による一日車掌・体験乗車やクリスマスツリー飾りつけを行いました。「あさてつファンクラブ」会員様限定の阿佐鉄 30 周年記念切符を配付するなど

会員確保にも努めました。

費用面では、平成24年度から取り組んでいる「経営計画（平成29年度更新）」に基づき人件費の削減をはじめとする経費節減策を継続的に実施しました。

阿佐東線のご利用状況につきましては、定期外人員は52,130人(対前年比91.9%)、定期人員は1,440人(対前年比35.3%)となり、合計で53,570人(対前年比88.1%)となりました。

損益につきましては、営業収益が11,673千円(対前年比129.5%)、営業費用が92,275千円(対前年比79.3%)、営業外収益が7,506千円(対前年比99.3%)、営業外費用が1,319千円(対前年比92.4%)となり、当期経常損失は74,415千円(対前年比73.5%)となりました。これに経営安定基金からの助成金をはじめとする特別利益及び特別損失等を加減し、当期純損失は1,095千円となりました。

これらの実績を分析しますと、企画乗車券の収入は僅かに伸びておりますが、繁忙期である夏場に台風や豪雨の影響を受けたことに加え、春に地域の会社が倒産し通勤による乗車人員が減少したことに伴い、乗車人員は前年度を下回り、旅客運輸収入は前年度を下回りました。前年度実施した車両2両の法定検査費用の影響を受け、JR四国との相互乗入による運輸雑収入の増加と、営業費用の減少により、当期経常損失は大きく改善致しました。

今後も阿佐東地区の少子・高齢化、人口減少、マイカー世代の高齢者層への拡大といった当社を取り巻く環境は今以上に厳しさを増していくと考えられますが、地元住民と四国遍路などの観光客の大切な移動手段として活用されるよう鉄道輸送の使命である安全の確保を最優先として、輸送人員と収入の確保、経費の節減に取り組んでまいります。

なお、DMV（デュアル・モード・ビークル）につきましては、阿佐東線存続の切り札として、また、観光の起爆剤として地方創生に寄与する乗り物として大いに期待されております。2020年の「東京オリンピック・パラリンピック」の年の運行に向けて、いよいよ車両製作や駅舎改築にも取り掛かりました。また、運転士の新規採用をはじめ、会社の人員補強も進めたほか、3月にはDMV1号車のお披露目イベントを実施しました。また、DMV車両を借用し、「DMVわくわくイベント」を実施し、阿佐東地域を中心に各種イベントで試乗会や展示等を行い、導入に向けた機運の醸成を図りました。今後も国や自治体をはじめとする関係機関との連携をさらに強化し、示したスケジュールに則ってしっかり取り組んでまいります。